

TOTO

壁掛大便器取付スタンド

UTR860N

安全のために必ずお守りください

取り付けの前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。この説明書では、機器を安全に正しく取り付けいただき、お使いになる人や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表 示	意 味
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

◆お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。

表 示	意 味
	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容を伝えるものです。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容を伝えるものです。

1. 設計上のご注意

床コンクリート仕様	圧縮強度20.6MPa以上
	鉄筋のかぶり厚50mm以上
	養生期間28日以上（アンカーボルト施工時）
	壁掛大便器取付スタンドの周囲40mmの範囲は床コンクリートの開口や欠損禁止
ライニングの奥行寸法	250mm以上（仕上げ厚含む）
壁仕上げ厚	30mm以内（下地＋仕上げ厚）
床仕上げ厚（注1）	60mm以内（標準便器高さの場合）

便器高さはスラブ面＋360～440の範囲で取り付けることができます。
（注1）便器高さを標準より高く取り付ける場合は、高くする寸法と床仕上げ厚の合計を60mm以内としてください。

（例：便器高さ床仕上げ面＋420mmに取り付ける場合
便器高さ420mm－標準便器高さ380mm＝40mm
60mm－40mm＝20mm ➡ 床仕上げ厚20mm以内）

警 告



●所定の仕様を満たさない床コンクリートには施工しない
スタンドの転倒や便器の落下による、けがや壁材の破損の原因となります。
※ 本取付スタンドは、床への固定のみで壁掛大便器などの荷重を支えます。



●指定以外の便器と組み合わせて施工しない
便器の破損、落下による、けがの原因となります。

●スタンド設置面はできるだけ水平を確保し、不陸がない状態にする
設置面の不陸が大きいと、集中荷重がかかり床や本体破損の原因となります。

※壁掛大便器取付スタンドは、専用壁掛大便器セットとセットで使用します。
※アースターミナル付接地極付コンセントおよびコンセントボックスは
パナソニック電気（株）の右記部材を使用してください。（ ・コンセントボックス品番：WV7013W
・コンセント品番：WN1131 ）

2. 商品概要

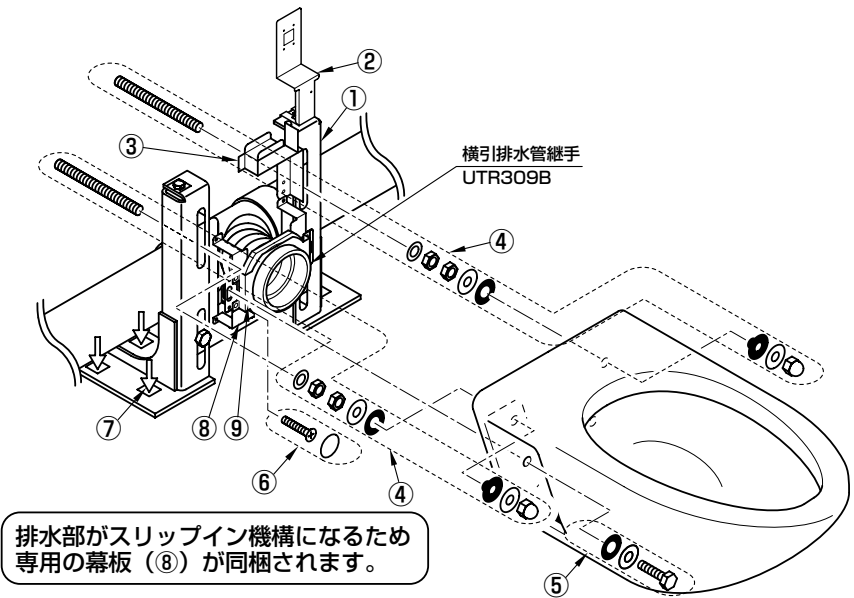
【壁掛大便器取付スタンド】UTR860N

構成部品	品 名	備 考
	①スタンド本体	※あらかじめ仮組みしてあります。
	②コンセント固定材	
	③ウォシュレット電源コード止め板	バインドタッピンM4×8…2本含む
	④便器取付ボルトセット	便器取付ボルト…2本、六角ナット…4個、平座金…2個、化粧座金…4個 平ゴムパッキン…2個、異形ゴムパッキン…2個、化粧ナット…2個
	⑤大便器取付金具	化粧ボルト…2本、平ゴムパッキン…2個、化粧座金…2個
	⑥下部受け材セット	下部受け材…1本、受け材化粧カバー…1枚
	⑦アンカーボルトセット	アンカーボルトM12…6本、床固定座金…6枚
	⑧幕板	バインドタッピンM4×8…8本含む
	⑨ソケット押え板	

【対応単独排水継手】 ……UTR310

【対応横引排水管継手】 …UTR309A・UTR309B

UTR309A・UTR309Bは排水管を床上で横引きする際に使用していただける横引排水管継手です。
UTR309A(左抜き用)、UTR309B(右抜き用)と品揃えておりますので選定の上使用してください。

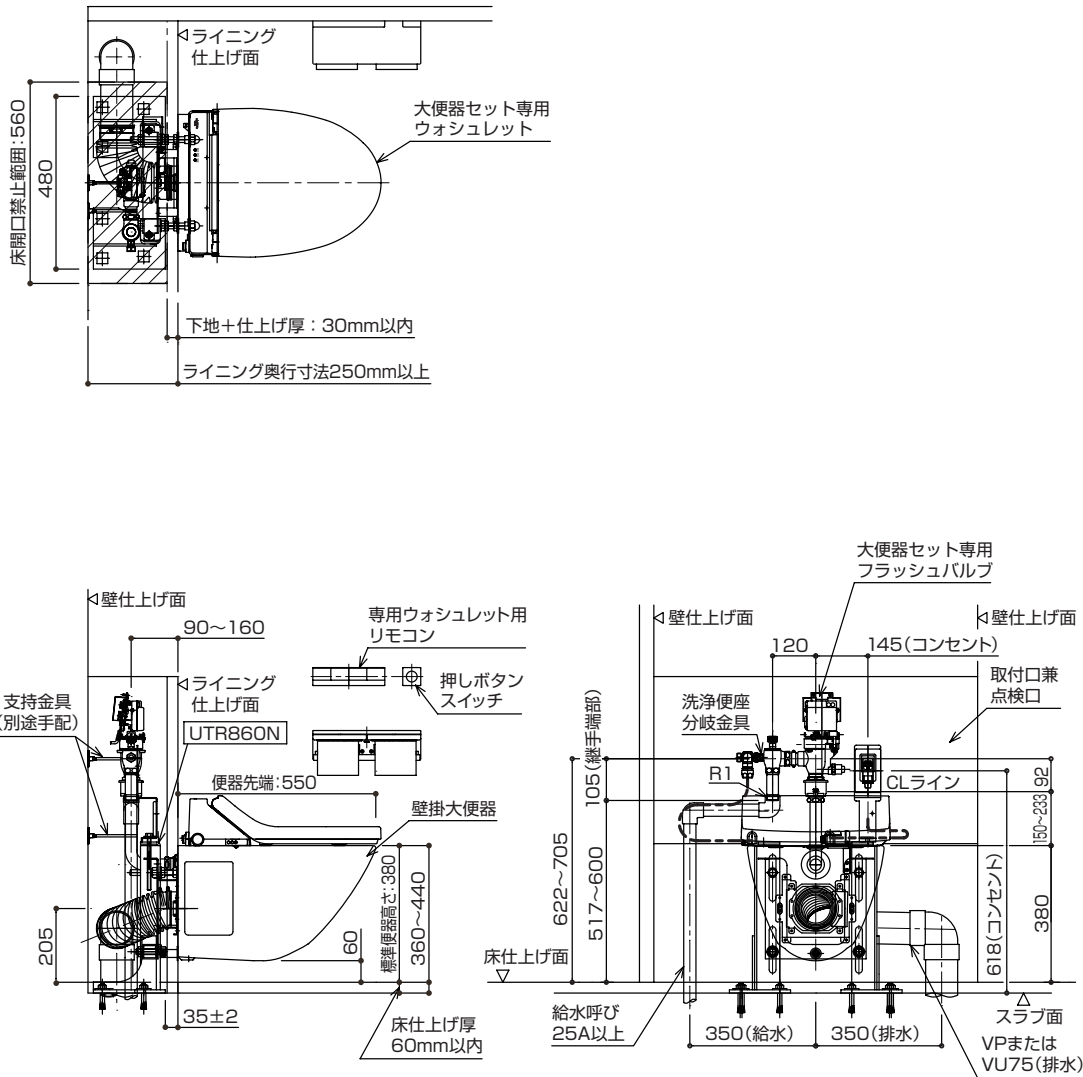


排水部がスリッピン機構になるため専用の幕板（⑧）が同梱されます。

※図の横引排水管継手は右抜き用を示します。

完成図

本図は、フラッシュバルブ仕様水質…水道水仕様、便座…便ふたあり仕様、排水継手…単独排水用を示します。

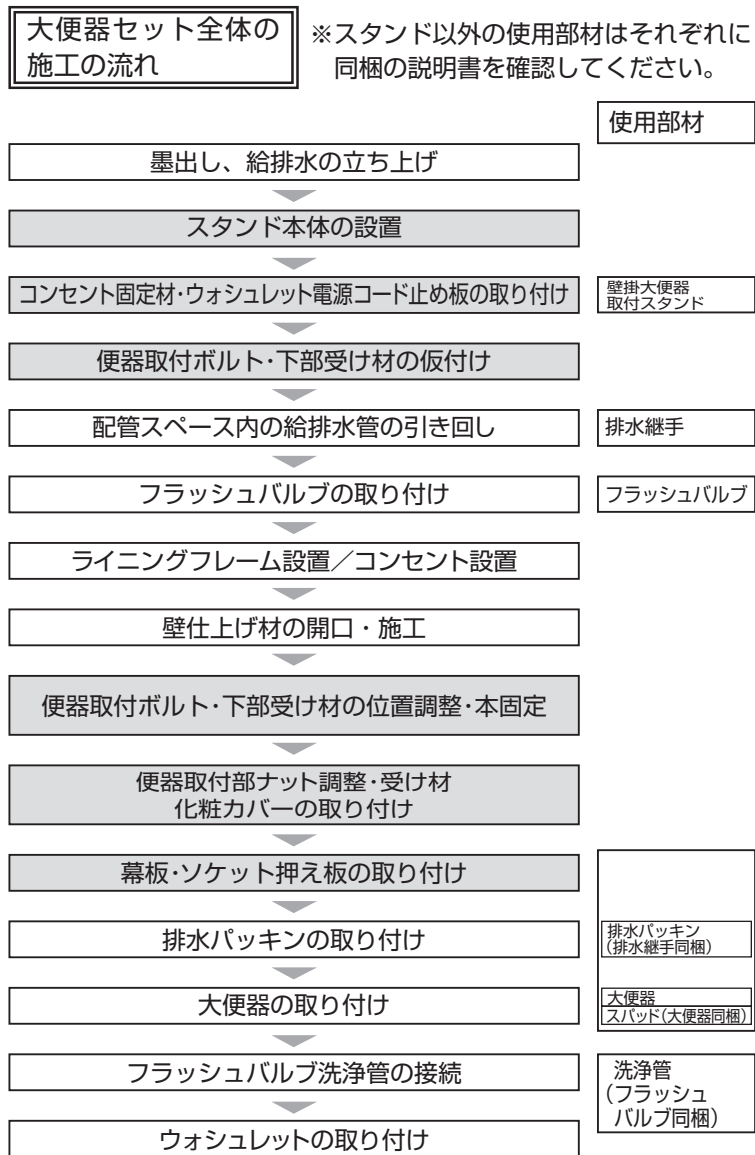


※ライニング点検口は現場にて別途用意してください。

3. 施工手順

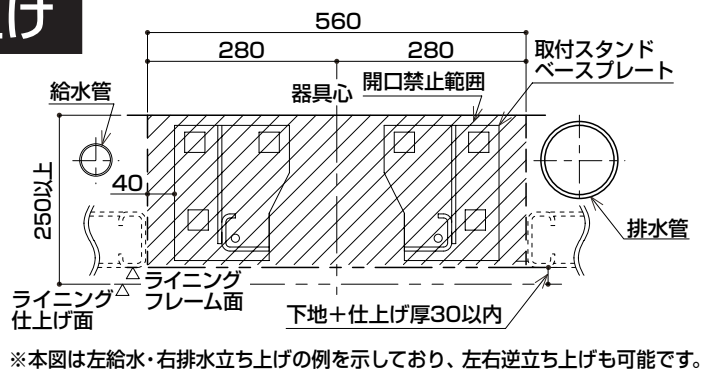
納まりや施工手順を事前に十分検討し、各工程における他工事との連絡調整を行ってください。

■…壁掛大便器取付スタンド設置工事



4. 給排水の立ち上げ

- ・給排水管は、床開口禁止範囲(スタンドのベースプレートの周囲40mmの範囲)と軽鉄(ライニングフレーム)を避けた位置から配管を取り出してください。
- ・排水管継手の設置条件については、「8.給排水管引き回し」を参照してください。

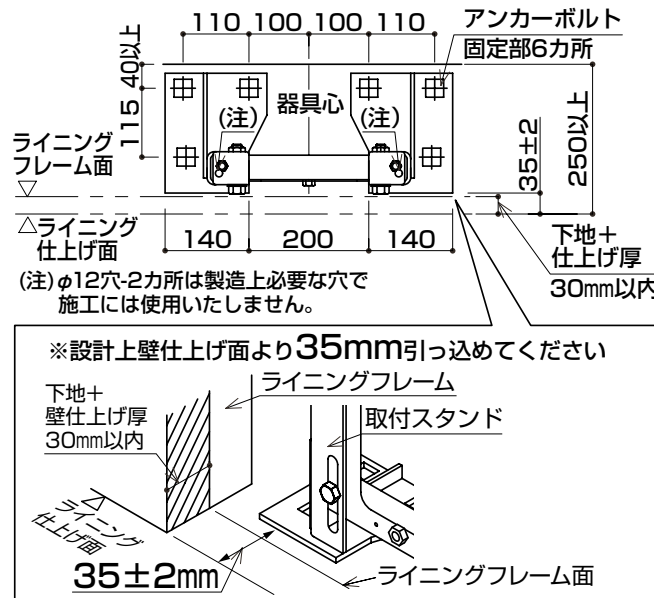


警告

- スタンドのベースプレートの周囲40mmの範囲に床コンクリートの開口や欠損があると、アンカーボルトの必要強度が得られないため、スタンドの転倒や便器の落下のおそれがあります。

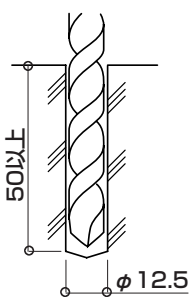
5. スタンド本体の設置とアンカーボルトの固定 ①

- ①スタンド本体は、あらかじめ仮組みされていますので、床に出した墨に合わせてスタンド本体を仮置きし、アンカーボルトの位置をマーキングします。(右図を参考にしてください。)
- ※ライニングフレームに軽鉄(LGS)をご使用の場合は、スタンドと干渉する部分に軽鉄ランナーを設置することができません。

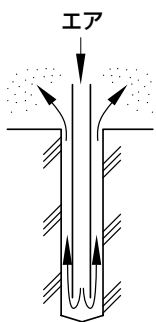


5. スタンド本体の設置とアンカーボルトの固定 ②

- ②下穴を開けます。
ドリル径: $\phi 12.5\text{mm}$
下穴深さ: 50mm以上

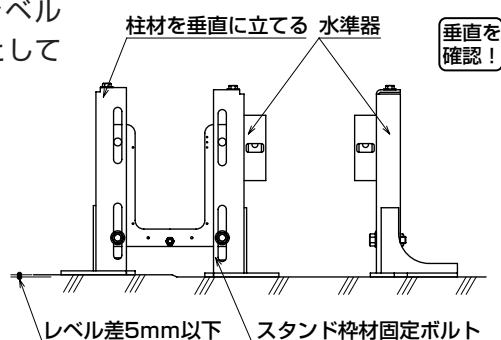


- ③下穴の中の切粉をブロアーなどで完全に除去します。



- ④スタンド枠材固定ボルトをゆるめて左右の柱材が垂直になるように下穴で合わせスタンド本体を置きます。

- 左右の柱材のレベル差は5mm以下としてください。



警告

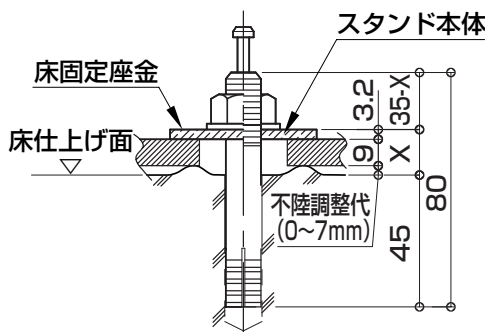


- 指定以外の径のドリルを用いたり、下穴深さが不足の状態では施工しない
強度不足による、スタンドの転倒や落下の原因となります。

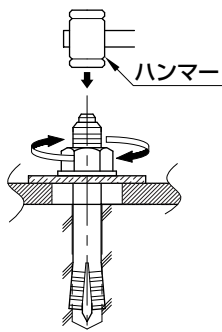
警告

- アンカーボルトの部分のベースプレートが浮いた状態で固定すると、アンカーボルトの必要強度が得られません。
ベースプレート接地面に不陸がある場合は、床コンクリートをはつってならすか、スペーサー(現場手配)を用いて調節してください。

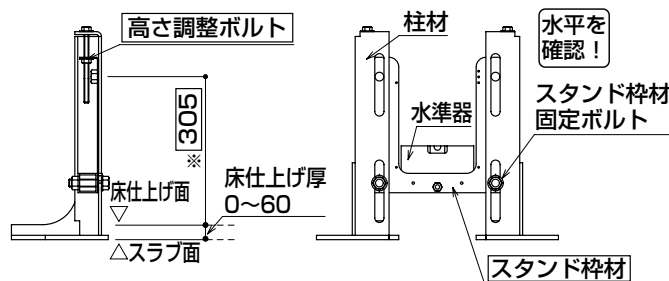
- ⑤床固定座金を固定部に置き、ナットの位置を調節し、アンカーボルト(M12)を挿入します。



- ⑥心棒をハンマーで確実に打ち込みナットの増し締めをします。



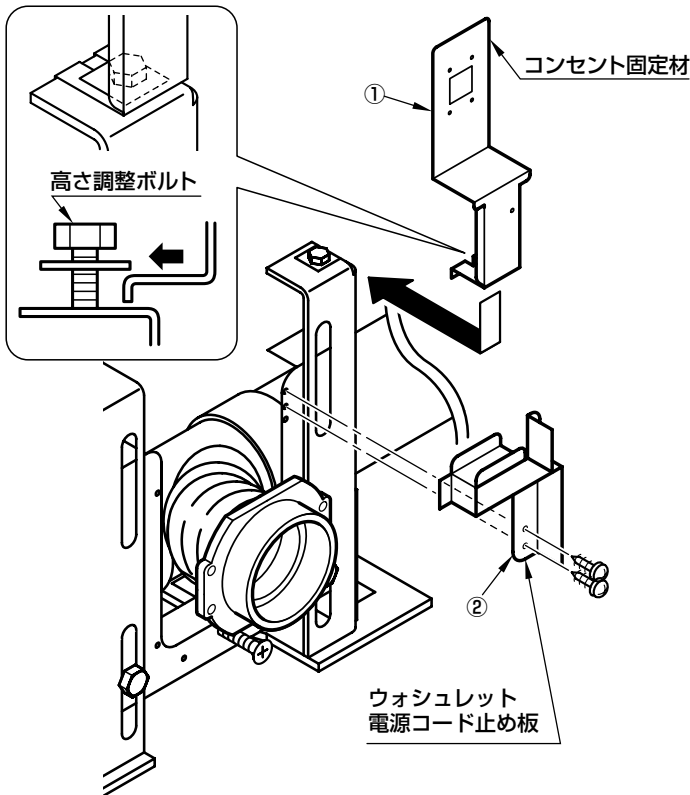
- ⑦高さ調整ボルトを用いてスタンド枠材の高さを調整します。
※スタンド枠材が水平になっていることを確認してください。



- ※便器高さを床仕上げ面+380mmに設定する場合
- ※高さ調整後はスタンド枠材固定ボルトで本固定すること

6. コンセント固定材・ウォシュレット電源コード止め板の設置

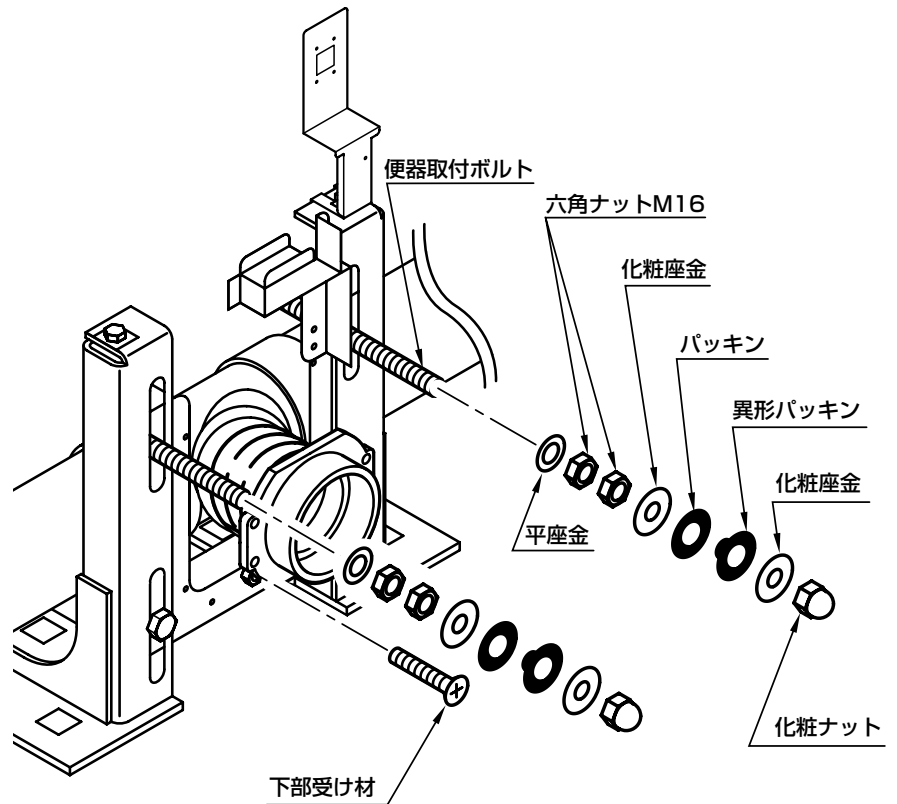
- ①スタンド本体の柱上面の高さ調整ボルトをゆるめコンセント固定材をボルトに挟み込んで固定します。
※必ずスタンド枠材固定ボルトを締め込んだ後に作業してください。
スタンド枠材固定ボルトを締め込む前に作業すると、スタンド枠材が動いてしまいます。
- ②ウォシュレット電源コード止め板をスタンド本体に付属のタッピンねじ(φ4×8)2本で固定します。



※図はフラッシュバルブ給水が大便器に向かって左の場合。
フラッシュバルブ給水が大便器に向かって右の場合はコンセント固定材のみ左右対称になります。

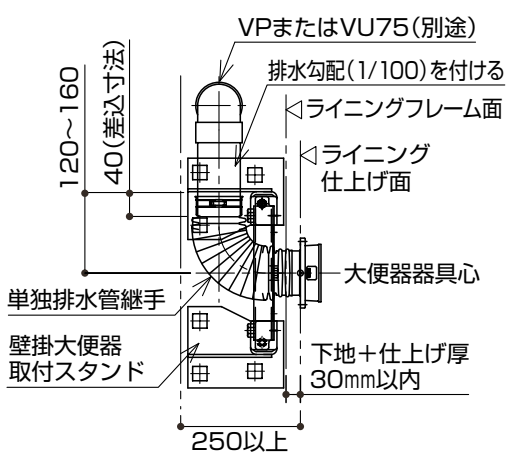
7. 便器取付ボルト・下部受け材の仮付け

便器取付ボルト・下部受け材を仮付けします。
前出寸法は、施工工程10.を参照の上、だいたいの目安を付けて調整しておきます。

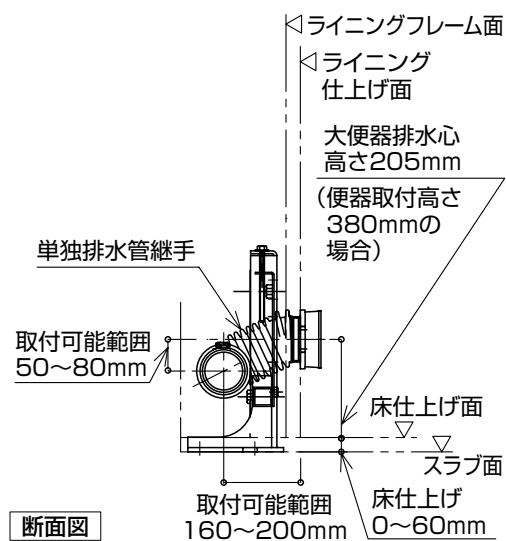


8. 給排水管の引き回し、フラッシュバルブ取り付け、ライニングフレーム設置、コンセント設置

床抜き配管の場合



平面図

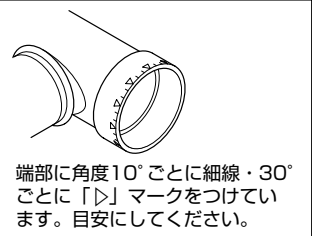


断面図

横引排水管継手を使用する場合

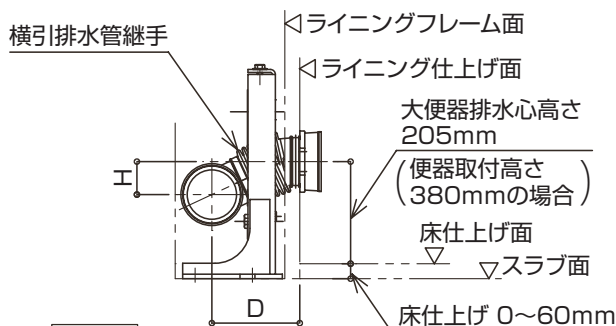
※ジャバラ部を無理に曲げないように下図および下表を目安に、角度を確認して取り付けてください。

H(mm)	50~55	55~65	65~75
θ(角度)	15°	20°	25°



❗ 横引配管と継手用の接着には塩化ビニル管用接着剤をご使用ください。

平面図



断面図

※図は、横引排水管継手UTR309B(右抜き用)を示します。
※UTR309A/Bを使用する場合、フランジ~横引配管までの奥行き(D寸法)や落差(H寸法)については、UTR309A/Bの施工説明書を参照してください。

- ①配管スペース内の給排水管の引き回し商品図に基づいて所定の位置に給排水管の末端を引き回してください。
・給排水管は別途手配してください。
・給水管の末端部にフラッシュバルブを仮固定しておきます。フラッシュバルブの取り付け詳細については、フラッシュバルブ同梱の施工説明書を参照してください。
・排水管末端部には必ず専用の排水継手(UTR309A、309B、310)を使用してください。
・横引排水管継手は、ライニングフレームを構成する下地材の奥行きが75mm以下の場合に使用できます。

—◇—◇—◇—◇—
ここでいったん設備工事が終わり、このあとライニングを組み立て、電気工事でコンセントを設置します。
—◇—◇—◇—◇—

- ②ライニングフレームを設置します。

ライニングフレームに軽鉄(LGS)をご使用する場合はスタンド(W=480mm)の周囲は適切な開口補強を行ってください。

9. 壁仕上げ材の開口・施工

ライニングフレームに壁材を張り付けます。



必ず実行

- 壁材にはライニングフレーム内に納まるフラッシュバルブやコンセントをメンテナンスできるよう、必ず必要サイズの点検口を設けてください。
詳細は商品図面を参照してください。

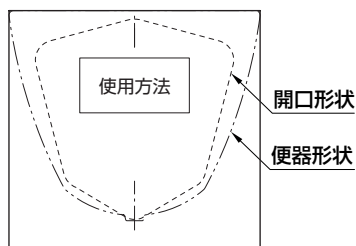
- ・大便器設置部の壁材の所定位置に付属の型紙を張り付け、開口を行います。
- ・使用方法の詳細は、同梱の型紙を参照してください。

※下地張り、穴あけなど、工事範囲や手順を事前に打ち合わせ調整してください。



注意

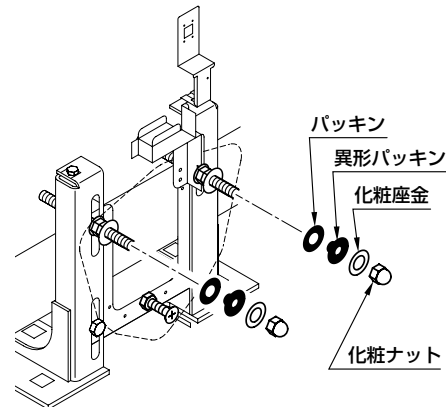
- 付属の型紙を必ず使用してください。
- 穴あけは型紙の指示通りの位置・大きさに必ず開けてください。穴が小さすぎると壁材が破損するおそれがあり取り付けができません。穴が大きすぎると取り付け時に便器形状から穴がはみ出してしまいます。



・開口形状をミシン目で切り離して外周に沿ってけがいてください。

10. 便器取付ボルトなどの調整・本固定

- ①右図のパッキン・異形パッキン・化粧座金・化粧ナットをいったん取り外します。（その他は取り外しません）

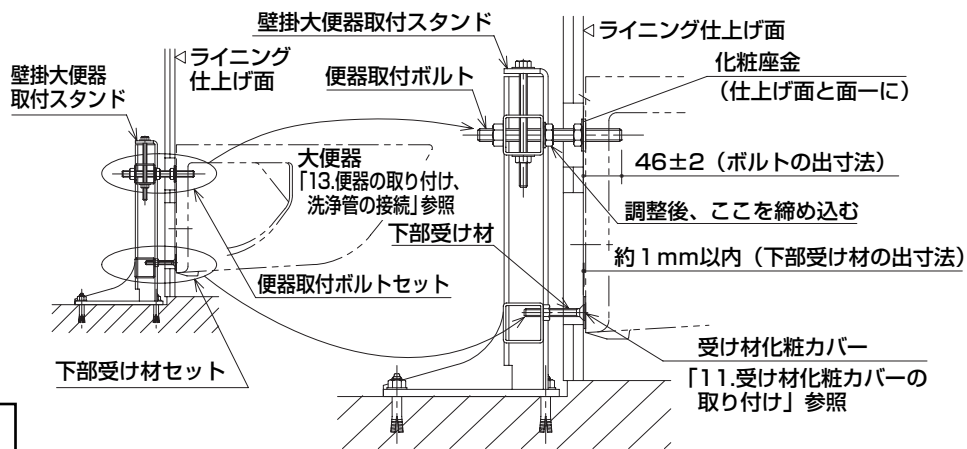


- ②スタンドの便器取付ボルトと下部受け材の出寸法を調整し、便器取付ボルト（左右2本）と下部受け材の3カ所で便器を支持します。

便器取付ボルトの出寸法：ライニング仕上げ面から46mm±2mm

下部受け材の出寸法：ライニング仕上げ面から約1mm以内

※受け材化粧カバーを付ける前の状態



注意

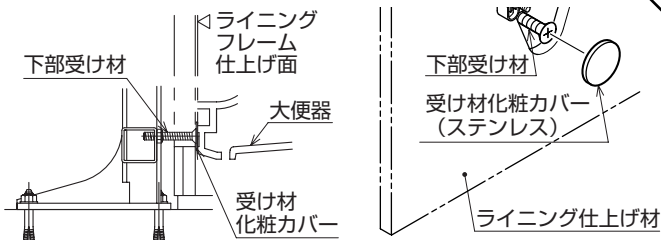
- 下部受け材がライニング仕上げ面より引っ込んでいると壁材に荷重がかかり、壁材が破損するおそれがあります。

- ③①で外したパッキン・異形パッキン・化粧座金・化粧ナットを再び仮付けします。
※大便器をすぐ取り付ける場合は、取り外したままで可。

11. 受け材化粧カバーの取り付け

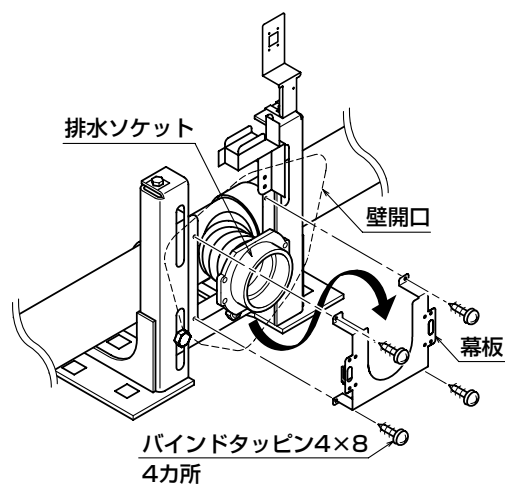
下部受け材の表面に、受け材化粧カバーを両面テープで張り付けます。

- ※下部受け材の頭（化粧カバーが張り付く面）のほこりや油分をよくふき取ってから張り付けてください。

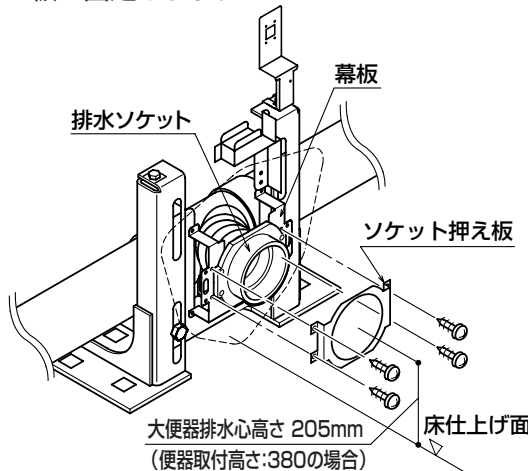


12. 幕板・ソケット押え板の取り付け

- ①仕上材開口部より排水ソケット部を手前に引き出し、幕板のスリット部に排水ソケットを上から勘合させて、付属のタッピンねじ（4×8 4本）によりスタンドに固定してください。



- ②ソケット押え板を排水ソケットにかぶせて、タッピンねじ（4×8 4本）により幕板に固定します。



13. 便器の取り付け、洗浄管の接続

- ①便器背面給水口に便器同梱のスパッドを取り付けます。
- ②便器排水口外周のごみや水分などを除き、向きを確認し排水口に排水パッキンを装着します。



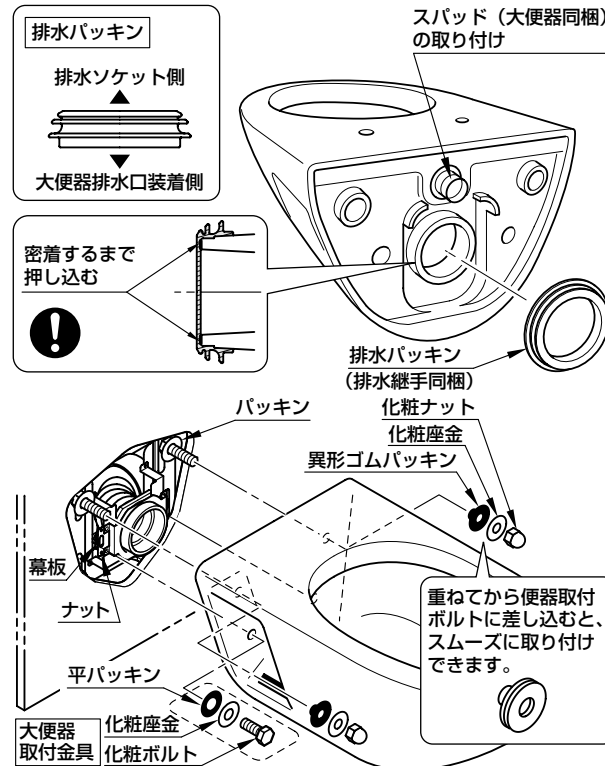
必ず実行

- 排水パッキン表面に必ず水または石けん水をつけてから差し込む
- グリスは使用しない
劣化して水漏れのおそれがあります。

- ③便器取付ボルトにパッキンを取り付けたあとに、便器を静かに便器取付ボルトへ差し込み、異形ゴムパッキン、化粧座金、化粧ナットの順で仮止めします。
- ④大便器取付金具の化粧ボルトに化粧座金と平パッキンを通し、便器の下部固定穴に挿入、幕板両サイドのナットに勘合させて固定します。
- ⑤化粧ナットを交互にパッキンに弾力が残る程度まで締め付け本固定します。
便器の先端を押して、壁と便器にすき間が出ないようになるのが目安です。
※パッキンの擦れる音が発生したら、化粧ナットを締め過ぎです。化粧ナットを若干ゆるめてください。
- ⑥下部化粧ボルトを交互にパッキンに弾力が残る程度まで締め付け本固定します。
※適切締め付トルクを出すために、
化粧ナット…中モンキー
化粧ボルト…小モンキー } の使用をおすすめします。

便器下端を必ず下部受け材に接触させ、便器にかかる荷重を2本の便器取付ボルトと下部受け材の3点で支持するようにしてください。

- ⑦フラッシュバルブと大便器スパッド間を洗浄管で接続します。詳細はフラッシュバルブ同梱の施工説明書を参照してください。



排水ソケット部納まり（横引排水管継手使用の場合）

